

## 第 221 回友の会 恭仁京

～みかの原 わきて流るる泉川

いつ見きとてか 恋しかるらむ～

中納言兼輔



中納言兼輔：紫式部の曾祖父 三十六歌仙の一人

日時 2023年11月19日(日)

場所 JR加茂駅から恭仁京跡

天候 晴れ

参加者 一般26名(内子供1名)、スタッフ11名 合計37名

加茂駅前の広場で集まり人数確認後、交通安全に留意しながら、元気に出発する。古い加茂町の街道筋を進みます。突き当りを右へ曲がり酒蔵の前で府道に出て加茂大橋に向かいます。

早速、道路沿いにホウキギクやオオカワジシヤを発見し、解説に耳を傾けながらゆっくり移動します。足がとまり、遅々として進まないのはいつもと同じです。

加茂大橋の歩道の隙間に生えるスミレの閉鎖花に注目するのも今の季節だからでしょうか。橋を渡るとエノキが黄葉、きれいな姿に人々は樹下に集まり、手を伸ばし赤い実を積み口に含む。甘いあまいと声を掛け合います。クロガネモチの赤い実を見つめ、マテバシイの堅果を拾い、動かない皆さんも促され前に進みます。

田んぼの道には、タデ類が目につき、水路にはミゾソバの花は終わりましたが、つぼみのように見えるのは実を形成中の花後の姿です。



スミレ



ミゾソバ



サクラタデ



マテバシイ



トンネルを過ぎると寄生植物のアメリカネナシカズラ（環境省要注外来生物）がネットのように草の上に覆いかぶっています。寄生植物のあり方に説明にも力が入ります。水路の向こう岸は人の手も入らないのか、朱色の実が鈴なりのカラスウリ。ニガガシユウ、ナツフジなどのツル植物がオンパレード、センニンソウの白いひげが目立つ実が印象的です。



アメリカネナシカズラ



カラスウリ

コースのあちこちにコセンダングサ、アメリカセンダングサが目立ち、その違いの説明を受けます。

満開のコスモス畑。たわわに実をつけた柿の大木を見ながら、古の歴史を偲び、うらかな恭仁京跡で昼食をとり休息。1時より恒例の「店開き」をして、タデの話、センダングサの話、寄生植物の話聞き、参加者の見聞を深めます。その後、予定のJRダイヤに合わせるため、少し行進のスピードを上げ進め、加茂駅近くの神社の境内でヤドリギに遭遇し、「店開き」での寄生植物解説の現物サンプルでその理解を深めました。加茂駅に戻り朝の集合場所で解散。無事予定の電車で帰路につきました。（文責：廣野）



センニンソウ

